

<今日の説教のポイント 創世記43章>

ヨセフの家族の恐れと悲しみ。その原因と解決の方向を考える。

①兄弟たち：犯した罪の重さに打ちのめされ、希望を持ってない状態。

かつて犯した弟ヨセフ殺害計画。死んだと思った父ヤコブは深く悲しみ(37:34-35、42:36-38)、兄弟たちは犯した罪を深く後悔したけれども(42:21-22)、もはやどうすることもできないと苦しみながら生きています。42-44章の彼らの姿は、色んな理由から先のことは考えられなくなり、もはや将来に希望を持ってなくなった人々の姿にも重なります。この状態からどうしたら抜け出せるのでしょうか？

②父ヤコブ：深い喪失感の下にあるが、かろうじて信仰的希望ありの状態。

父ヤコブは深い喪失感から来る悲しみから立ち直れませんでした。それは、ヨセフの兄弟たちがかつて覚えた、弟ヨセフを父ヤコブが偏愛したことへの妬みの思いも吹き飛ばすほどの深い悲しみでした。しかし、ヤコブは襲い来る次の苦境の中で、立ち帰るべき方向に目を向けました。すなわち、憐れみを施し給う全能の神に向かって祈り願い、しかも、さらに苦しみを受けることになるなら、それも受け入れようと語ったのです(43:14)。神様に目を向ける中で、それはなされたのです！

③ヨセフは何を考えているのか？ 後に語る驚くべき言葉に注目！

ヨセフは一体何を考えているのか、と思います。そのためには、後にヨセフ自身が語る驚くべき内容から考えなくてはなりません(45:4-8)。ここを見ると、彼もまた目を神様に向けていたのです！人間のいかなる罪をも凌駕する、神様の驚くべき赦しと恵みに満ちたご計画に目を向け、それに沿って彼自身も考えています。彼の持って回ったやり方も、このことから考えることが大事でしょう。

④犯した罪は赦されないのか？ 否、赦し給う神がおられる！

自分が犯した罪を深く反省することは大事です。しかし、それで将来のことが考えられなくなるのはおかしいのです。世界と私、そして苦しめた相手をも造られた神様がそれを望んでおられません。私たちも、御子イエス・キリスト送ってまでして「私に立ち帰りなさい」と呼びかけて下さる神様を受け入れて、新たに歩み出せばいいのです。